



様々な偽装問題などが起きている昨今、世の中の安全・安心への要望は高まる一方だ。何らかのお墨付きがあれば安心で、それが誰からも見えて明らかならなお良い▼産業廃棄物やアスベスト処理でも安心安全を求める声は強い。アスベスト診断士は地域ごとに診断士協会を発足させ組織化を進めているが、このうち中国・四国協会がアスベストの飛散の恐れがない建物に「アスベスト安心マーク」を付与する方向で準備を進めている▼建築物のアスベスト使用の有無は所有者だけでなく、利用者にとっても関心の高いところだ。公的機関ではないのでどこまで説得力があるかの問題は残るが、マークが付いていれば利用者の安心感は高まるだろう▼産業廃棄物では環境省が優待性評価制度の普及を進めている。一定の基準を満たしている業者を自治体が適合確認する制度だが、いまひとつアピールしづらいところだ。基準適合マークの導入も検討された。しかしこれは見送られた。理由は自治体から「他県で受けた認定マークを貼った収集運搬車両に走られては困る」という反発が出たため。民間と行政の柔軟性の違いがあらわになった例と言えるが、こうしたことは本来なら行政が率先して取り組むべきところではないだろうか。(心)

平成20年12月3日
環境新聞